

遅延・コミット・ロールバックカスタムアクション時に プロパティへアクセスする方法

注)このドキュメントは、InstallShield 2011 Premier Edition を基に作成しています。InstallShield 2011 以外のバージョンでは設定名などが異なる場合もあります。

概要

msi 形式インストーラでは、遅延・コミット・ロールバックカスタムアクションにてアクセス可能なプロパティは一部のプロパティのみとなります。(CustomActionData、ProductCode、および UserSID 等) これら以外のプロパティを遅延・コミット・ロールバックカスタムアクション内で使用した場合、正しく値を取得することができません。

上記のカスタムアクションよりプロパティの値を使用する場合は CustomActionData プロパティに事前に必要となるプロパティの値を格納しておく必要があります。

この記事では CustomActionData プロパティを使用して、遅延実行カスタムアクションにてINSTALLDIRプロパティにアクセスする場合の手順についてご説明いたします。

A. CustomActionData プロパティに INSTALLDIR プロパティを設定する

CustomActionData に格納されたプロパティは、遅延実行のカスタムアクションからもアクセス可能になります。CustomActionData プロパティへ事前に INSTALLDIR の値を格納するプロパティセットのカスタムアクションを作成します。

1. [動作とロジック]—[カスタム アクションとシーケンス]ビューにて、カスタムアクションを右クリックして [新しいセットのプロパティ]を選択します。プロパティセットのカスタムアクションが作成されますので、名称を「caSetINSTALLDIR」に変更します。

2. caSetINSTALLDIR を選択して右のペインにて以下の設定を行います。

項目名	設定する値	備考
プロパティ名	caShowINSTALLDIR	プロパティ名は INSTALLDIR プロパティへアクセスするカスタムアクション名と同一に設定します (後述の手順Bを参照)
プロパティ値	[INSTALLDIR]	使用するプロパティ名を[]半角大括弧で括って指定します
インストール実行シーケンス	次の後:InstallInitialize	
インストール実行条件	Not Installed	初回インストール時のみ

共通	
caSetINSTALLDIR カスタム アクション	
プロパティ名	caShowINSTALLDIR
プロパティ値	[INSTALLDIR]
戻り値の処理	同期 (終了コードを確認)
スクリプト内実行	即時実行
実行スケジュール	常に実行
64 ビットスクリプトの使用	いいえ
インストール UI シーケンス	<シーケンスになし>
インストール UI 条件	
インストール実行シーケンス	次の後:RemoveExistingProducts
インストール実行条件	
アドバタイズ実行シーケンス	<シーケンスになし>

B. 遅延カスタムアクションで、INSTALLDIR プロパティにアクセスするカスタムアクションを作成する

実行シーケンスにて INSTALLDIR を使用するカスタムアクションを作成します。今回の手順では VBScript カスタムアクションより MsgBox 関数を使用して INSTALLDIR の表示を行います。

1. [動作とロジック]—[カスタム アクションとシーケンス]ビューにて、カスタムアクションを右クリックして [新しい VBScript]—[カスタム アクションに保存]を選択します。VBScript カスタムアクションが作成されますので、名称を「caShowINSTALLDIR」に変更します。

※ カスタムアクションの名称は手順 A で設定したプロパティセットのカスタムアクションのプロパティ名と同一にする必要があります。

2. caShowINSTALLDIR を選択して右のペインにて以下の設定を行います。

項目名	設定する値	備考
スクリプト内実行	システム コンテキストで遅延実行	Windows Vista 以降のOSでは、システムコンテキストで遅延実行の設定を使います
インストール実行シーケンス	次の後:InstallFiles	
インストール実行条件	Not Installed	初回インストール時のみ

3. 上部の[スクリプト]タブを選択して、以下の VBScript コードを追加します。サンプルコードでは、INSTALLDIR を直接参照した場合と CustomActionData を使用した場合でそれぞれメッセージボックスを表示します。

```
MsgBox "INSTALLDIR =" + Session.Property("INSTALLDIR"),0,"INSTALLDIR を直接取得"
MsgBox "INSTALLDIR =" + Session.Property("CustomActionData"),0,"CustomActionData を取得"
```

The screenshot shows the InstallShield Designer interface with the 'caShowINSTALLDIR' custom action selected. The 'Script' tab is active, displaying the following configuration:

項目名	設定する値	備考
スクリプト内実行	システム コンテキストで遅延実行	Windows Vista 以降のOSでは、システムコンテキストで遅延実行の設定を使います
インストール実行シーケンス	次の後:InstallFiles	
インストール実行条件	Not Installed	初回インストール時のみ

C. ビルド・インストーラの実行

1. ツールバーの[ビルド]ボタンをクリックして(手順 2 の画像の赤い丸のついたボタン)ビルドを実行します。ビルドは [F7]キーからも実行可能です。
2. ツールバーの[実行]ボタンをクリックしてビルドしたインストーラを実行します。(画像の青い丸の付いたボタン)



3. インストール実行シーケンスにて最初に表示されるメッセージボックス(INSTALLDIR プロパティを直接使用)では正しく INSTALLDIR の値が表示されません。その次に表示される CustomActionData プロパティより取得を行ったメッセージボックスの場合、正しく値が表示されます。



D. 複数のプロパティをカスタムアクションで使用する

カスタムアクション内にて複数のプロパティにアクセスする場合、CustomActionData プロパティに対して特定の区切り文字を使用して複数のプロパティを連結して設定します。アクセスする場合にはカスタムアクション側にて分離して使用します。今回の手順では、カスタムアクションより INSTALLDIR と SUPPORTDIR の両方を表示させます。

1. カスタムアクション「caSetINSTALLDIR」を以下のように変更します。

プロパティ値	[INSTALLDIR];[SUPPORTDIR]	二つのプロパティの値を“;”(半角セミコロン)で区切って設定します。
--------	---------------------------	------------------------------------

2. カスタムアクション「caShowINSTALLDIR」の[スクリプト]タブにて、“;”(半角セミコロン)区切りで渡されたプロパティを分離して使用するコードを追加します。

```
Dim PropArray,INSTALLDIR,SUPPORTDIR
```

';' を区切り文字として CustomActionData に格納されたプロパティをそれぞれ配列に保存

```
PropArray = Split(Session.Property("CustomActionData"), ";")
```

'保存された値を変数にそれぞれ格納します

```
INSTALLDIR = PropArray(0)
```

```
SUPPORTDIR = PropArray(1)
```

```
MsgBox "INSTALLDIR =" + INSTALLDIR & vbCrLf & _
```

```
"SUPPORTDIR =" + SUPPORTDIR ,0,"複数のプロパティを取得"
```

3. SUPPORTDIR プロパティはサポートファイルを使用しない場合、値が設定されません。正しく SUPPORTDIR プロパティが取得できていることを確認するために、サポートファイルにファイルを追加します。
[動作とロジック]—[サポート ファイル]ビューにて、[言語非依存]に適切なファイルを追加します。



4. 再度ビルドを実行します。インストーラを実行すると、INSTALLDIR および SUPPORTDIR の両方がメッセージボックスに表示されます。

